



学校だより

園里っ子

須坂市立豊丘小学校

令和4年2月21日

文責：中沢 裕子

TEL026-245-0491

※HPでもご覧いただけます

コロナ禍での3学期の活動から

立春を過ぎてからも雪の日が多く、地域・保護者の皆様には通学路の除雪で大変お世話になっております。子ども達の安全確保のためにご尽力いただき本当にありがとうございます。

3学期が始まってまもなくコロナ感染症オミクロン株による第6波が押し寄せ、人数が少ない本校でも安全対策に万全を期し、5年生は教室での人数を半分に分ける分室での学習を行ってきました。今週から市内全ての学校での分散登校が解除され、それにもない分室での授業も終了しましたが、今後も引き続き、日常生活での感染予防に努めてまいります。体育に関しては体育館やグラウンドで十分に密を避けられる環境にあると考え、連学年での体育を行ってきました。身体接触を避けたりやマット、跳び箱等の共有器具を使う運動は行わない等に配慮し、十分な距離をとっての運動を今後も心がけていきます。また、授業参観は中止にさせていただき、オンラインによる学級懇談会といたしました。接続テストにご協力をいただき、高学年の学級懇談会は無事終わりました。ご協力ありがとうございました。これから低学年の学級懇談会がありますがよろしくお願いいたします。

今後も朝の健康チェックにより、少しでも異常を感じた場合は無理をせず、健康状態に応じて家庭でのオンライン学習に切り替えるなど、コロナウイルス感染予防へのご協力をお願いいたします。

3学期の様子から



1月14日に希望者による漢字検定を行いました。現在は何の学年も各学年の漢字を全て終え、タブレットを使って上の学年の漢字に挑戦しています。



雪と遊ぶのが大好きな子ども達。寒さに負けず大きなかまくらを作ったり、放課後や休日でも校庭で思い切りそり遊びしたりする姿が見られます。コロナ感染症拡大の影響でスキー教室は中止になりましたが、豊丘ならではの雪との楽しい関わりが見られます。



児童会長選挙



児童総会



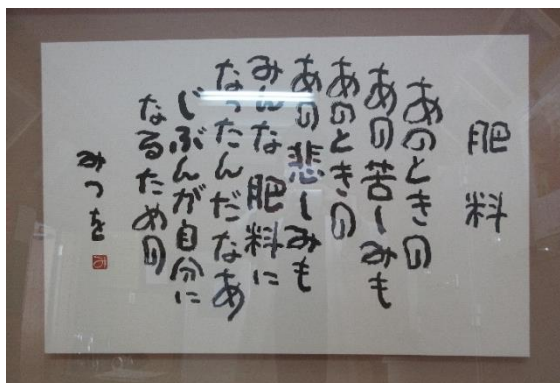
質疑・応答



コロナ警戒レベルが6となってからの児童会長選挙と児童総会。児童会長候補の演説や投票、児童総会での活動報告や、それに伴う質疑・応答の全てがオンラインで行われました。オンラインでも各学年から活発に質問や意見が出され、6年生の委員長さん達がさすがの貴祿で見事に応答していました。これで児童会は5年生にバトンタッチです。

相田みつをさんの作品を間近に見て

須坂市で開催される「相田みつを展」に先立ち、本校に「肥料」という作品が4日間展示されました。「相田みつを」という名前を初めて聞く児童がほとんどでしたが、子ども達は作品によせられた相田一人さんのメッセージを見て、自分なりの感じ方で作品を味わっていました。



子ども達の感想から

肥料
これは、父が六七歳で亡くなる一年ほど前、自分の人生を振り返るようにして書いた作品です。
父は、頭の中でイメージをふくらませて詩を書くというタイプの詩人ではありません。自分が体験したことから言葉を紡ぎ出すという泥臭いタイプの詩人でした。ですから、「肥料」を見ると、私は父の人生の中でこういう詩を書かざるをえなかった悲しい体験や苦しい体験を想像してしまっています。
それが具体的に何だったのかは今となってはわかりません。仮に生前に「あのとき」というのは何なのかと、父に尋ねてもきつと答えなかったでしょう。

相田みつを美術館 館長 相田一人

苦しみも悲しみもみんな肥料になってうれしいことにつながっていくと感じました。

「あ」と「の」が特徴的だと思った。特徴的な字で山になっている。亡くなる1年前に書いた「肥料」はどんな思いでかいたのか気になった。

今の自分が苦しみや悲しみで過去の「じぶん」から今の「自分」になったんだと思いました。喜びが伝わってくる感じがしました。

苦しいことや悲しいことがあってもそれはいつか人生の役に立つと言っているような感じがした。

わたしも詩を書く人になりたいです。あの時はどんな時だったのか、私も知りたいです。とてもいい詩だと思います。

「あの」が山を登るように上がっているのは坂を上っていくように苦しみや悲しみがあつたことを表していると思った。

悲しいことがあっても乗り切れる感じがいいと思いました。見れば勇気が出そう、と思いました。

最初が「じぶん」なのは、まだ自分が見つかってなくてやっと見つけた「自分」なんだと思いました。

とても迫力を感じて呆然としました。文字の形で気持ちが表されているような気がしました。

「あの」がたくさんある。「じぶん」をひらがなと漢字で書いたのはどうしてかなと思った。

最初の文字がだんだん上がって下がっていて、みつをさんはいろいろな山をこえてきたのかな？と思いました。

間近で作品を見るインパクトは大きく、たくさんの感想が寄せられました。全部を掲載できずすみません。いろいろなことを感じ、考えさせてくれる作品でした。この作品のことを家でも話題にしたり、「家族で見に行くんだよ」と教えに来たりする子もいました。他の作品からはどんなことを感じるのだろう、と楽しみになります。この作品を含む「相田みつを展」は2月23日からクラシック美術館、旧小田切家住宅、ふれあい館まゆぐらで開催されます。